

審議会等名	令和5年度 第1回 図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	令和5年6月12日（金）午後1時30分～3時
開催場所	三条市立図書館 2階 ひめさゆり会議室
傍聴者の有無	あり
出席者氏名	<p>【協議会委員】 倉品委員長 若月副委員長 まるの委員 間藤委員 佐藤委員 鈴木委員 吉田委員</p> <p>【説明のための職員】 （生涯学習課） 恋塚課長 永井課長補佐 岡田係長 泉田主任 （指定管理者） 篠原館長 川口副館長 夏目三条営業所長</p>
協議題	<p>（1）委員長副委員長選出 （2）令和5年度図書館運営計画について （3）新潟市との相互連携について （4）電子図書館の利用促進について （5）読書会の基準について （6）その他</p>
篠原館長	（あいさつ）
恋塚課長	（あいさつ）
	（協議会委員、生涯学習課職員、指定管理者職員の順で自己紹介）
篠原館長	三条市図書館協議会規則では議長は委員長が務めることになっているが、現時点では委員長副委員長とも不在であり、選出までの間事務局が進行する。委員長副委員長の選出は「委員の互選により定める」となっている。ご推薦が有ればお願いしたい。
倉品委員	指名推薦ということだが初めての方もおいでであるし、私も全員の方はよく知らないので事務局一任としてはどうかと思う。皆さんいかがか。
篠原館長	事務局に一任とのことで異議がなかったので委員長を倉品委員に、副委員長を若月委員にお願いしたい。
各委員	拍手をもって選出
倉品委員長	就任の挨拶
若月副委員長	就任の挨拶
篠原館長	以降の議事は委員長に進行をお願いしたい。
倉品委員長	それでは、協議題（2）「令和5年度の図書館運営計画」について説明をお願い

	する。
篠原館長	(資料に基づき令和5年度図書館運営計画について説明)
若月副委員長	要望だけではなく図書館を利用して感じたことはないか。
鈴木委員	1階に時計が見当たらない。高いところにはあるが子ども利用する場所がない。おはなしの部屋でゆっくりくつろぎ本を読んでいて何時だとわかるようにしてほしい。安全面でも出入口に近い場所であるので時計があった方が安心できると思う。
吉田委員	新聞に開館時間が長すぎるのではとの投書があったが、中国に留学していた時は年中無休で夜12時まで学生が勉強をしていた。まちやまの学習コーナーをたくさんの方が使っている。三条の子どもたちがここで勉強することで学習水準が上がるのではないかと思う。本を貸すばかりでなく学習コーナーがプラスになっていると思う。長く勉強するために柔らかい椅子を入れてほしい。長く利用するところだけでも交換できないか。
倉品委員長	午後10時までというのは良いと思う。反対の声も耳にするが今までのことを考えたら学生は喜ぶだろう。
若月副委員長	電力料金の値上げもあるが、利用の少ない場所は照明を暗くするなどやり方がある。経費節減に努めているとして大いに利用できるようにしてほしい。
まるの委員	まちなかのにぎわい創出の観点でまちやまを中心に本好きの人が集まっている。まちやまだけではなく、小さい書店がたくさんあるのでそれをきっかけに連携させてもらえたら嬉しい。歩いて移動する人が少ないがまちやまに来た人がすぐそこなので行ってみようという寄り道する場所が増えたらいい。周辺書店のマップやショップカード、チラシを置ける場所を作ることによって来館者が他にも面白い場所があることを知ってもらい機会やイベントなどをいろいろな書店と一緒にできれば嬉しい。
倉品委員長	にぎわいの創出として大きなイベントが年8回、中小が24回とあるがかなりハードであるが今まで行ったものを紹介してほしい。
篠原館長	昨年では「おはなしおななし」や絵本の原画展など今までやってこれなかったことを行った。またマルシェ開催時には来館者が多いのでそこに合わせた取り組みを行った。まずは来ていただかないとも始まらない。大きなイベントがあるので来てみた。図書館にも行ってみようということもあるので、今後のたくさんの展開をしていきたい。
倉品委員長	イベントは図書館スタッフが考えているのか。
篠原館長	ツクルドさんじょうとして運営しているので、図書館だけではなくNPO法人えんがわと一緒に取り組んでいる。
若月副委員長	障がい者高齢者サービスであるが大活字本は実際にどれくらいの方が利用しているのか。

篠原館長	大活字本は当初障がい者用として作られたものであったが、活字が大きく読みやすいのである程度の年齢層以上の人には利用されている。積極的に利用してほしいのは「声の図書館」である。しかしながら規定がある中で作ってもらっているものであり誰でも利用できるのではない。障がい者だけではなく普通の本が読みにくくなった人でも登録をすれば利用できるようになっている。この辺りは今後 PR していきたい。
吉田委員	来館する人から本に関する要望などは無いか。
篠原館長	具体的にこの本をというリクエストはたくさん受けている。
吉田委員	現在の蔵書数はどれくらいか。
篠原館長	30 万冊ほどあるが閉架書庫にもたくさんあるため、全ての本を実際に見てもらうのは難しい。検索いただいた本を書庫から持ってくることもできる。検索が難しい場合には著者名でもタイトルの一部からでも探して持ってくることもできる。
吉田委員	10 年くらい利用がない本はどれくらいあるのか。
篠原館長	すぐに数字では示せないが、中には一度も貸出がない本もある。中央図書館として置いておくべきだという本もある。また必ずしも借りるとは限らない。事典など調べものの本は学習コーナーでの利用が圧倒的に多い。
吉田委員	どのような分野の本がよく読まれているか。
篠原館長	小説類が圧倒的に多い。
倉品委員長	新潟市との提携について説明をお願いします。
岡田係長	(資料に基づき新潟市との相互連携について説明)
倉品委員長	たいへんわくわくするような感じである。8 月 1 日を目途に私たち三条市民はまず新潟市でカードが作れるということか。
若月副院長	私は職場が新潟市であったので良く利用をしていた。蔵書が 100 万冊あるが分散している。うまく連携しながら三条市から新潟に仕事に行き、また戻るといった人も増えているのでこうした提携は良い。新潟県立図書館の話になるが、数か月前まで県立で借りた本は県立に返さなくてはいけないと思っていた。最寄りの図書館で返せること聞いた。県立図書館の本の三条市で返せること、三条市にいながらいろいろな本を借りることができると PR すると良いのではないかと自分の経験から思った。
倉品委員長	しかけ絵本について説明をお願いします。
篠原館長	(資料に基づきしかけ絵本について説明)
倉品委員長	しかけ絵本コンクールはコロナで中断という意識でいたが、コロナが収まりつつあるので復活ということではないのか。

岡田係長	しかけ絵本コンクールは全国から応募があり、審査をして市の予算から賞金を出すという形で行っていた。栄分館の利用者の増加に繋がればということで行っていたが効果が上がらず費用対効果も踏まえて事業としては廃止になった。しかけ絵本蔵書日本一というところは図書館業界の中では認知されているようであるので、これをPRしてそういった部分での活用ができないか皆様からのご意見をいただきたい。
倉品委員長	栄分館のしかけ絵本を一部他の図書館へ移したいという事で良かったか。
篠原館長	栄分館のしかけ絵本コーナーがいっぱいになり、新しい本を置けない状態となっている。しかし除籍すると数が減ってしまうため、例えば同じ本が複数ある場合には下田へ移すなどして新しい本を置く場所を確保しつつ、他の分館などでもしかけ絵本が見られる機会を設けたい。
倉品委員長	本館と栄分館だけではなく、下田分館、嵐南分室でということも視野にあるということか。
鈴木委員	しかけ絵本に関しては栄分館がメインで新しいものを入れて、そこに集中していく。下田分館にもしかけ絵本コーナーを作りたいということか。しかけ絵本は小さなお子さんが絵本に入りやすいものであるので、よみきかせに結び付けるきっかけの一步はとても良いものだ。返却時にしっかり確認してもらわないと借りた時にしかけがないということになってしまう。除籍する前にできるだけ修理をしてほしい。
篠原館長	再購入できるものはできるだけ購入したいが、修理も難しいということになった時にはもう購入ができないこともあり、悩ましい部分でもある。
倉品委員長	電子図書館について説明をお願いします。
篠原館長	(資料に基づき電子図書館の説明)
倉品委員長	電子図書館を利用したことがある人はいるか。
鈴木委員	利用はしていないが見たことはある。
倉品委員長	使ってみたが返却日を忘れても自然に返却されるので助かる。電子図書館活用の良いアイデアの提案はないか。実際に使って体感してもらおうということだろうか。
篠原館長	絵本などもあり、英語の絵本だと読み上げ機能があるので英語教育に使えると言うお母さんもいる。またコロナ禍で病院の待合室などにも雑誌なども置いていない。待ち時間で飽きる時に便利だという方もいる。また市外にお住まいの方がここまで来ることは難しいが電子図書館利用もできるのであれば、とのことで新規登録をされたケースもある。
倉品委員長	電子図書館の導入はまだ県内でも少ないのか。
篠原館長	燕市と新潟市だけである。

まるの委員	図書館の利用カード登録時に案内しているのか。
篠原館長	入り口にも置いてあるが、うまく浸透していかないのが現状である。
まるの委員	電子書籍に抵抗感がある方は使わないと思うが、単純に知らないのか、どれくらい便利なのかわからない点も多いのではないかと。使い方ガイドなどがあると良いのではないかと。
吉田委員	電子図書館は長時間見ていると目に悪いのではないかと。
若月副委員長	仕事をしていく上で電子化がどんどん進んでいくが重要なものはプリントアウトする。やはり世代間の差があるのではと思う。しかしこれから先、抵抗感がなくなってくるような世代、働き盛りの成人にもっとPRをする。この周辺以外の人たちにこちらに出向かなくても利用できることをPR、実践する中でだんだん浸透していく可能性はあると思う。高齢の方にこうやればできるというところをもっと努力して繋げていく。いずれ時代が来たら可能ではないか。小学校の情報化実践教育などもあるので変わっていくと思う。
まるの委員	確かに抵抗感がある方はたくさんいると思うので、最初は本当に必要としている方、そこからだんだん社会的に移行していくという形になるのでは。先ほどの病院で使うというのはとても良いと思う。通院している人はもちろん入院している人は返却が難しく、病院の小さい書店で買うしかないと聞く。入院患者向けやシニアセンターなどで登録案内をすると良いのではないかと。返却の必要がないというのがとても良いので、そういう方に広げていくのが良いのではないかと。
鈴木委員	病院や高齢者福祉施設になると電子機器の取り扱いが大変だと思っている方もいるので「電子図書館」という言葉でシャッターを下ろしてしまう。複雑で覚えられないとかパスワードが覚えられないなどという方がいる。わかりやすく表示をして電子図書館は足を運ばずして見ることができる。今はスマホを使いこなしている方もいるので、そういった方をターゲットにして、福祉センターのサロン系の元気な高齢者に向けて行ってはどうか。
倉品委員長	学校の校長会での呼びかけとあるがこれは大事である。中学生などをターゲットにした出前授業はできるのか。
篠原館長	既に行っている。学校で使っているタブレットを自宅に持ち帰ることが可能だと聞いているので、学校で読んだ本を自宅に持ち帰りタブレットで読むことができる。それを見た保護者にも電子図書館があることを知ってもらってということも考えている。
倉品委員長	読書会の基準について説明をお願いします。
篠原館長	(資料に基づき読書会の基準について説明)
倉品委員長	部屋がキャンセルになってしまうのはマナーとして良くない。
篠原館長	会議室は利用希望が多いが、読書会として予約があるところは依頼があっても予約済みと返答せざるをえない。

若月副委員長	<p>今後検討していかなければいけないと思うが、新年度に読書会の代表者に来てもらってこういう状況であるという注意喚起を含めて、読書会というのか何なのか、利用についてはこういうことが必要でということも含めて一度集まって確認しながら進めていくのが良いのではないか。実は昨日同じ時間帯にいろいろなイベントがあり、どこに行こうかと選択した。県内各地をそれぞれの方言を使って民話の紹介をするということで選択をした。「三条語りの会とびら」というグループが参加者への説明などしっかり運営がなされていた。図書館スタッフが大変であるのならしっかり運営されているところにご相談しながら、読書会のグループ間で一部自主的に、市の関係者や図書館の人も脇に見ながら逆に自主的に作ると上から目線でこうこうだというのは非常にデリケートな問題であると思うので、そちらの方に運営をしっかりした認識を任せられるような恰好で進めていくのもいろいろな問題点、課題を防ぐ可能性がある。</p>
倉品委員長	<p>具体的なことを教えていただいたが、是非新年に機会が有ったらやっていただきたいと思う。</p>
鈴木委員	<p>ずっと昔の旧図書館にあった時からボランティア活動をスタッフとして登録をしていた。改めて読書会の基準についてほとんどの方が目にされていない状態でボランティア保険の関係で名簿を出すのが、私の所属するボランティアの会の構成員が誰という正式な説明も出したことがないので、先ほど仰っていただいたように1年に1回は説明会で毎年3月までに名簿を出して正式に登録ということであれば、途中で変わっても読書会の基準が成り立ち、皆さん会議のメンバーが認識されていれば良いのではというのが一点。構成員が5人以上という点は、常時参加されて例えば体調が悪くて1年間休会という方がその中に入っているとなどいろいろな問題が出てくると思う。基準についても新しくスタートするまでに確認できるとありがたいと思う。</p>
倉品委員長	<p>最後にその他に移っていくが、佐藤さん間藤さんどうですか。ひとことお話があればお聞きしたいと思います。</p>
間藤委員	<p>DVDの視聴ブースが2か所しかないが、旧図書館では3か所あったと思う。</p>
川口副館長	<p>旧図書館ではブースが2か所あり、コロナ禍ということで1か所にて運用させてもらっていた。まちやまには2か所ある。</p>
吉田委員	<p>長野源世さんと話す中で、ニューヨークの図書館では何でも貸したりするが三条らしいことが何かできないかと思って考えている中でまちやま道具箱の話がでてきて6月からスタートした。三条の道具として包丁、かんなど図書館利用カードさえ持っていれば無償で貸してくれる。実は別の所からまちやまでイベントで使ったりする時など廃材なども良かったら提供すると言われている。こういう話がどんどん広がっている。まちやま道具箱という形で全国の図書館でやるのは初めてである。</p>

吉田委員	商工会議所が協力してくれて商工会議所から企業に声掛けをしてくれていた。
倉品委員長	新しい図書館ができ、まちやまができいろいろなアイデアを出して三条が動き出したという感じがある。
吉田委員	調べた限りでは図書館では初めてだが、普通にホームセンターでも貸してくれるがそれはそれとして。
若月副委員長	その他のところであれば、ニューヨーク市立図書館はすごい。ドキュメンタリー映画にもなった。ものすごく精神的なことを一生懸命に日本でもできるのかというくらい皆さんが知恵を出してくれた。市民と一緒にこんな仕組みを作ってくれて頭が下がるような映画で大変評判であった。図書館と言えどどうしても頭に何かを入れるために行くというイメージがあり、ニューヨーク市立図書館は知識をいれるだけではなくそこに学びに行くためにある。いろいろな講座が開かれていたり自分で起業するために何をしたらよいかということを勉強したりする。三条市立図書館もそういった講座がぼつぼつ出てきたりするが、こういったことが大人向けの活用や子供向けの活用が少しずつ変わってくるかもしれないので是非皆さんからもいろいろな地域でこんなことをやっているということがあったら教えていただいて、全てはできないかもしれないが知った上でどこからやっていこうかというのは大事だと思う。持っている頭は一つしかないがみんなが集まれば10個以上になるので是非教えていただきたい。
倉品委員長	わくわくするような話となってきた。まずはここまでとして、もっとアイデアがあったらお話していただきたい。
倉品委員長	議長役を下りて事務局に返す。
篠原館長	(閉会あいさつ)